

# U A E L

No. 9  
2013.5

URBAN AMENITY ENGINEERING lab.



2. 巻頭言

3. ISAIA2012

4-5. 卒業論文・卒業設計

6. 課外活動

7. 学科ニュース  
卒業生からのメッセージ

8. 情報かわら版

「赤坂サカスにて」 撮影：清水里美



秋田県立大学 建築環境システム学科 計画学講座 都市アメニティ研究室



## 研究とユーモア

ユーモアのセンスを高めるための本として、殿村政明氏の書いた「ワラトレ」がある。この本に、ネタ帳の作り方が書いてある。ネタ帳は芸人のものと捉えがちだが、一般人でもユーモア力を付けるにはネタ帳を作ることが良いそうだ。

ネタ帳の書き方は三段階ある。まず街中やテレビなどで遭遇した「驚き」や「異変」を見過ごさずにキャッチしてメモを取る。写真を撮っても良い。その場で思い付いたツッコミも簡単に書いておく。これを毎日一つ行う。

次に、持ち帰ったメモに、5W1H（いつ・どこで・誰と・なぜ・何を・どうしているときに、そのネタをキャッチしたのか）を追記する。できるだけ、当日夜に書いておく。一見すると不要に感じるかも知れないが、人に話すときに 5W1H が欠けているとストーリーにならず、面白さが伝わりにくいため、必ず書いておく。

後日、すき間時間に、メモに書かれた異変とツッコミに対する「更なるツッコミ」を書いておく。作ったネタは他の人に見せたり聞かせたりして、反応の良かったものを選別していく。そのストックは、誰かと話していて話題に困ったときなどに使える。

このネタ帳の作り方は、研究活動の「アイデア帳」と同じであることに驚かされた。アイデア帳には、ふと思いついたことを見過ごさずに、どんなに些細なことでも必ずメモに取る。そして、後で補足情報を加えていくからだ。私の学位論文の内容は、修士課程 1 年生の春に羽田空港で人を待っている時に書いたメモが元になっている。しかし、メモを取っている時は、ただの思いつきであった。

私は常日頃から、優秀な先生や研究者は、ユーモアのセンスも高いと感じてきた。それは天性の頭の回転の良さによるものだと思っていたが、殿村氏のワラトレを読み、これは、小さな驚きや異変を敏感にキャッチするセンスと努力の副産物だと分かった。さて、学生達に「すべらない話」を作らせるトレーニングでもやらせるべきか？



浅野 耕一（あさの こういち）  
建築・都市アメニティグループ  
都市アメニティ工学分野

## Ulaanbaatar の都市問題に触れて

ちょうど 1 年前の春、H 君からウランバートル市をテーマにした自主研究をしたいとの申し出を受けた。彼はウランバートル出身の力士、いや違う、学生であり、流暢な日本語と礼儀正しさに、まず驚いた。

### ●ウランバートルという都市

一緒に調べて次に驚いたのは、ウランバートルという都市である。モンゴル国では 1992 年の社会体制の変化により私有財産制が成立し、2002 年には申請すれば 700 m<sup>2</sup>の土地が無償提供されるという制度も登場した。さらに、2009 年の雪害「ゾド」による家畜の大量死により、放牧生活から都市生活への転換が進み、都市への人口集中が加速した。

その結果、1998 年に 65 万人だった市の人口は 2007 年に 100 万人を突破、現在は 122 万人である。その結果、何が起きているのか？

### ●「ゲル地区」の問題

まず、草原に立つ「ゲル」を思い浮かべてほしい。白いキャンパス地の円形型移動式住居である。都市に流入した人々は、その簡便さから市街地でありながらゲルに居住し、私有財産を主張するために「ハシャ」という塀の境界をつくる。下水、電気、上水すら整備されていない地域で住宅地化が進み、それが「ゲル地区」と呼ばれる。大気、水質、土壌、教育、就業、治安のどれをとっても問題山積みの地区であり、なんと全世帯の 60.5%がここに居住している。世界で前例のない状況が発生し、ウランバートル市で大問題となっている。

### ●前例のない処方箋

さて、先日、人口問題研究所の人口推計が発表された。秋田県の場合は 2040 年の人口が 70 万人を割り、2010 年比で 64.4%になるという。こちらも前例のない状況の進展である。「住民を 1 カ所に集約するコンパクトシティでインフラの保有量を減らす」との識者のコメントには、「そんな簡単な問題ではない。」と反論したくもなる。むしろ国土交通省審議会の報告にある「小さな拠点の整備」が、華々しさはないものの現実を見据えたリアルな提言であろう。

ウランバートル市と秋田県。両極端ではあるが、どちらも前例のない中で都市問題の処方箋を書く作業が続いており、設計ではなく「計画」の力が試されている。



山口 邦雄（やまぐち くにお）  
建築・都市アメニティグループ  
都市アメニティ工学分野

# 高山あずさ， 国際学会 ISAIA で発表

in 光州（韓国）

## Case Study on Estimation of Private Habitat Energy Consumption in Yurihonjyo City Using Questionnaire Survey Results

D13S004 高山あずさ



公的に入手可能なデータを活用し、住宅のライフサイクルアセスメント（LCA）ツールを使用するためには、不明確な入力データの推定が必要である。澤地らの研究では、比較的入手可能なデータを使用して住宅のエネルギー消費量の推定方法を提案した。しかし、この研究は大都市圏で行われた調査であり、また 18 年前の社会条件に基づいているため、現在の実状に合っていない可能性がある。

そこで本研究では、地方都市である由利本荘市で住宅のエネルギー消費に関するアンケート調査を行った。調査結果から、家族人数のような比較的入手可能な情報を従属変数とした居住環境エネルギー消費量の推計方法の検討を目的とする。

調査結果と澤地らの推定値の比較から、暖冷房エネルギー消費量は調査結果の中央値は推定値とほぼ一致している。一方、照明や家電のエネルギー消費量はアンケート調査結果と推定値との間には相関がないことがわかった。地方都市では家族人数や家族年収の従属変数は変更または追加する必要があるといえる。

## ISAIA2012 発表の感想

初めての国際学会でのオーラルの発表でとても緊張しました。質疑応答では戸惑った部分がありましたが、おおむね無事に終えることができました。日本以外の同年代の発表を聞く機会はありませんだったのでいい経験になりました。非常に楽しかったです。（高山）

## 韓国 光州（クァンジュ）の街

光州広域市は韓国南西部の代表都市です。芸術の都と呼ばれています。

旧市街は歩道には食品など様々な露店があり、楽しみながら街を散策できました。旧市街から新市街、空港まで地下鉄が整備されていてそれぞれにアクセスしやすかったです。（高山）

## 日本が韓国に学ぶべきこと

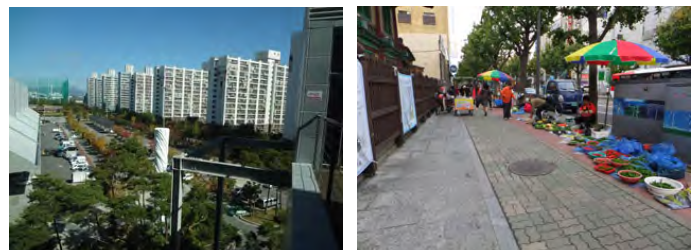
韓国の空港、ホテル、会場、観光地、飛行機、タクシー、電車、地下鉄等々...電子化を目にする機会が多く驚いた。帰国後に調べると日本よりも 10 年は IT 化が進んでいるのは衆知のようで、サーバーテロによる大騒動も領ける。

今回は残念ながら行けなかったが、ソウル市には高架道路が取り除かれ、生態系が回復し、市民の憩いの場となった清溪川がある。これは清溪川復元事業によるもので、約 3 年で実現している（2002 年本部設立、2005 年事業完了）。日本の日本橋再生計画は 2005 年に首相が支持してから 7 年が経つが実現していない。ここに政治的背景があるのは否めないが、韓国のスピード感、モチベーションといったエネルギーは今の日本が見習うべきことかもしれない。まちづくりについても日本が韓国から学べることは多く、国際的視野をもって学びあう姿勢や意識が必要かもしれない。

渡辺 真季

建築・都市アメニティグループ

建築計画学分野



左上：光州の新市街  
右上：光州の旧市街の  
主要道路（歩道）  
左下：清溪川  
（チョンゲチョン）

# 平成24年度 卒業論文・卒業設計

## 卒業論文

工藤 美紗子 「市街化区域拡大とマスタープランの計画不整合により生ずる問題の考察  
—岩手県盛岡市を事例として—」

## 卒業設計

佐藤 奈々 「en でつながる子育て支援施設」  
郷内 陽平 「都市の感触 —私とわたしの育つ場所—」  
森下 諒 「循環玄鑑」



卒論・卒計を代表して、工藤さんの論文と佐藤さんの設計を紹介します。

## 「市街化区域拡大とマスタープランの計画不整合により生ずる問題の考察 —岩手県盛岡市を事例として—」

工藤美紗子

### 1. はじめに

我が国の人口は既に減少期に転換しており、とりわけ地方都市の人口減少率は著しいものがある。

こうした背景を受け、地方都市の多くは都市計画マスタープランにおいてコンパクトシティを提言している。岩手県盛岡市は、近年の人口減少にも関わらず、宅地の供給を目的とした市街化区域の拡大や流通業務地である土地に大規模な商業施設の出店に伴った市街化区域の拡大を行っている。そのため都市MPに定めた目標都市像との乖離が発生しており、何かしらの問題発生が想定される。

以上のことから、本研究では盛岡市において市街化区域の拡大地区と都市MPの方針との不整合から発生している問題を考察し、今後の知見を得ることを目的とする。



図1 7地区（拡大地区）の位置

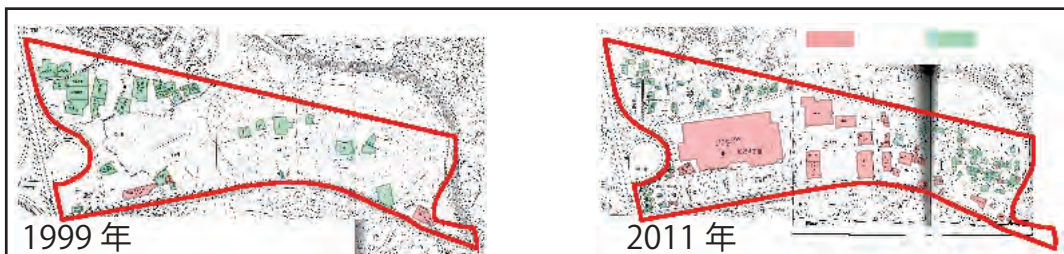
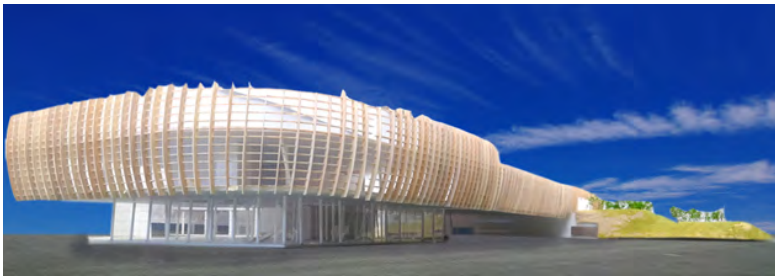


図2 前潟地区の変化

### 2. まとめ

今回の研究では、MPとの整合がなかったものの、対象地区の内部のみ観点からは問題が生じていない地区において、都市全域の観点から調査、考察を行った。

その結果、実際には都市MPに掲げる「コンパクトなまちづくり」を阻害する方向で問題を抱えていることが明らかとなった。



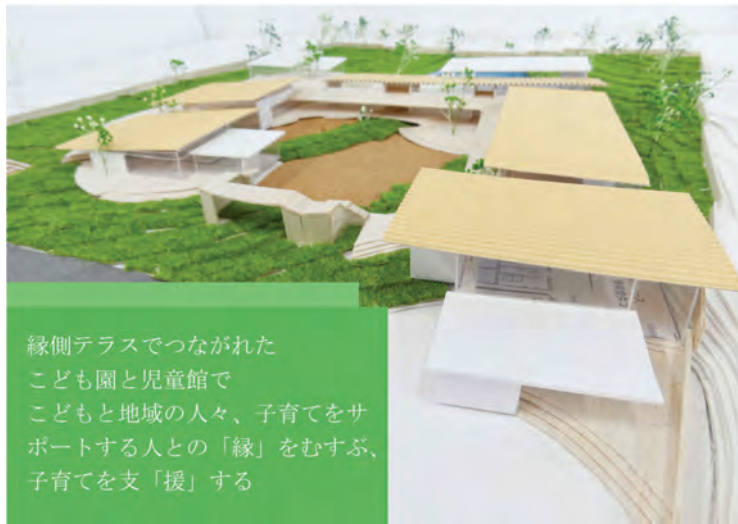
秋田空港の設計：「循環玄鑑」 森下諒



こども園の設計  
「都市の感触 一私とわたしの育つ場所」  
郷内陽平



模型製作中の佐藤奈々



縁側テラスでつながれた  
こども園と児童館で  
こどもと地域の人々、子育てをサ  
ポートする人との「縁」をむすぶ、  
子育てを支「援」する

## 「en でつながる子育て支援施設」 佐藤奈々

### 【卒計の感想】

今回、子育て支援やこどものあそび環境について考えた施設の計画を試みました。こどもの屋外あそびを促す環境とはどんなものか、子育てをどのように地域で支えるか考え、表現することは難しかったです。地域に合った施設を考える作業の大切さを感じ、今後もこの体験を活かしたいと思いました。



子育て支援スペース



テラス



アトリエ

### 【コンセプト】

こども園、児童館を訪れた子育て世帯の人々と、保育士や児童厚生委員等との「縁」をつくることは、子育ての悩みの解消等につながり少子高齢化の食い止めへの一種の働きかけとなり得ると考えました。またこどもと地域の高齢者等の人々との交流にもつながり、園を利用することが地域のコミュニティ形成の手助けともなることを期待し、コンセプトは「en でつながる子育て支援施設」としました。



## 卒業修了展の報告

今年は苅谷ゼミも参加しました！

2月16日と17日、秋田市民交流プラザ ALVE で都市アメニティ工学研究室の第5回卒業・修了展が行われました。日頃の研究成果について市民、行政、研究者の皆様にご発表すると共に、今後の都市づくりについて広く議論する場をつくることを目的としています。



### 卒展係から一言！

去年の担当だった郷内さん、佐藤さんにアドバイスをもらいつつ進めていたのですが、段取りが悪く予定通り行かず多くの方々に迷惑をかけるはめになってしまいました。しかし、同時にその多くの方々に助けて頂いたおかげで、子供たちや夫婦の方々に私たちの活動を紹介する事ができ、なんとか有意義なものへとすることができました。来年はPR活動にも力を入れつつ、今回の反省点をもとに後輩へとアドバイスをやりたいと思います。

【畠山】

卒展の準備の際はあたふたして何をどうすればいいかわからないこともありましたが、チラシを送るのが遅れたりしたことで、作業が滞る事もありました。しかし、準備段階から先輩方がわからないことを教えてくれた事やスケジュールのアドバイスをしてくれたほか、当日皆が一般の人の注目を集めるための工夫を考えながら作業してくれたため、無事に終了することが出来ました。

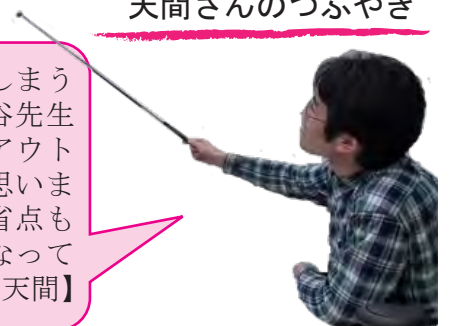
【平塚】

### アンケート結果

卒業展示全体の印象は「面白かった」という意見が大多数であり嬉しく思った一方、「もっと研究成果を広く公開すべき」という意見も多数あり、事前のPR活動（チラシの貼付け等）が不足していた事が原因であったと考えられる。今後はこのような反省点をもとに次回につなげていきたい。

卒展当日に大量の遅刻者が出てしまうトラブル等もありましたが、苅谷先生のアドバイスにより展示のレイアウトが改善され、来場者も増えたと思います。来年の卒展では、今回の反省点も踏まえてより多くの方にご覧になっていただけるといいなと思います。【天間】

### 天間さんのつぶやき



## 都市アメニティサロンの報告

今年の都市アメ・サロンは「歴史的街並み・建造物を活かした地域づくり」をテーマとして開催致しました。まちづくりに携わっている協会やNPO、市役所など数多くの方に参加していただきました！

サロンの流れとして、はじめに都市アメニティ研究室から今年度の活動について報告し、その後「増田の日」実行委員長で地域活性化のNPO活動もしておられる加藤勝義さんから横手市増田の内蔵を活かした地域活動についての報告、「能代市議会議事堂の存続・活用を求める会」代表の加賀繁さんから能代市議事堂の保全活動の経緯、今後の課題についての報告をいただき、その後はビールを片手にリラックスした状態で熱い議論を繰り広げました。

その議論の中でも特に印象に残ったことを2つご紹介致します。1つ目は増田の蔵の写真集の発刊に伴い、住民の歴史的建築物の保存・活用の意識が変化したというお話です。増田では美しい内蔵の写真集を発刊しアピールしようという活動がありました。それに対して、内蔵の持ち主の方々には写真を撮る事に対し最初は違和感や反対があったそうです。しかし、写真集が仕上がり、持ち主の方々がそれをチェックするとその出来映えに満足し、その後の活

動に好意的に接するようになったということです。加藤さんは写真という手段を用いて、まちづくりと住民の方々の気持ちをうまく繋げたのです。

2つ目は、能代市議事堂の保存に関わる市民と行政とのやり取りです。こちらは解体予定であった議事堂でしたが、市民の「能代の歴史を表わす建物を残したい」という熱い思いを胸にした市民活動により議論を重ねた結果、保存となりました。今後、その利用形態についての市民と行政との議論は続きますが、この行為の積み重なりがまちをつくります。

ご紹介したように、住民、行政、NPO団体の活動や行動が絡み合い、まちはつくりられます。今回のサロンはそれらが伝わってくる場であり、大変貴重な経験となりました。私はまちづくりのこのような側面が大好きです！このニュースレターを読んでいただいた方にまちづくりの楽しさが伝わればと思います。

【宮崎】




## 長谷川先生が教授に！！

卒業生の皆様におかれましては、お元気にお過ごしのことと存じます。私事、4月より教授に昇進いたしましたので、この場をお借りしてご報告させていただきます。私自身、これまでと変わらずに大学教員としての責務に精一杯取り組んでいくつもりであります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

さて、先の震災を契機として、エネルギーの需要・供給に対する関心が大いに高まりました。当然のことながら、建築物を運用するためには、エネルギーの供給は不可欠です。昨年12月に「都市の低炭素化の促進に関する法律」が施行されましたが、今後、地球環境問題への対応も含め、より具体的に建築物（さらには都市レベル）の適切な環境計画が必須となります。また、2020年には新築の建築物（戸建住宅

も含めて）すべてに省エネルギー基準が適応され、将来的にはゼロエネルギー建築やLCCM建築等が主流となるといわれています。低炭素化に資する建築技術が闇雲に適用されることのないよう、気候条件やエネルギー供給に関わる地域性、コスト等について、設計者や施主の適切な判断を促す建築環境評価や設計資料等の構築が私の社会貢献の一つと考えています。

大学に来られる機会がありましたら、是非お気軽に声をかけて下さい。我々教員は、卒業生の皆様と再会できることが何よりもうれしいものです。皆様のご活躍を期待しています。

 長谷川 兼一



## 卒業生から後輩へのメッセージ

### 「毎日がイベント！健康第一！」

最後の年は特にあつという間です。私は卒研も大詰めの際にインフルエンザにかかったり、ゼミ前に風邪をひいたり、階段から落ちたり…頑張りどきに体が不調では踏ん張れませんので、健康管理をおろそかにしないことが大事だと思います。



工藤 美紗子  
[セキスイハイム東北 北日本支店]

### 「午前中を大事に！！」

4年生になり研究や設計も最後になり、一つの研究や設計のウエイトが今までとは全く違ってきます。作業時間の確保も大事ですが効率的な質の良い作業時間の方が大事になってきます。そこで午前中を有効活用してください。朝起きてすぐは頭もスッキリしているし作業を邪魔する物が少ないのでとても良い時間です。それを心がけて頑張ってください！！



森下 諒  
[奥村組]

### 「気付きの機会を増やすこと！」

日常的に自分の考えを話し、周りの人の意見を聴くことが良いと思います。自分の考えをわかりやすく相手に伝えようとする中で、自分の考えを整理することができます。更に自分自身が気付いていなかった問題点やその解決策に気付くことがあります。また、他人の意見を聴くことで新しい考え方を学んだり、自分の意見に取り入れたりすることも良いと思うので、ぜひ意識してみてください。



郷内 陽平  
[株)タカカツホールディングス 高勝の家]

### 「やるときはやる！あそぶ時はあそぶ！」

都市アメは忙しい分、仲良くなるのもすごく早いです。今年はキャンプやお月見など色々なイベントができてとても楽しかったです。建築学研修や卒業研究などやるべきことはしっかりやり、でもあそぶ時はがっつりあそぶことができれば、よい思い出づくりができると思います。今後も都市アメならではのイベントが増えてくれるとうれしいです！



佐藤 奈々  
[創建ホーム株式会社 仙台支店]

●都市アメ研究室によく顔を出してくださいました、掃部関さん（材料研）からも一言お願いします！！



### 「目の前にあるのは壁ではなく、ただの重い扉」

ある漫画のセリフです。壁を無理に乗り越える必要はありません。一步引いて見ると、重いだけの扉なことがわかります。1人では開けれなくとも、周りに協力してもらえば必ず開いて前に進めます。悩んだ時は1人で考え込まず、周りを頼りましょう！

掃部関 和明  
[株式会社大林組]

大変お世話になりました！！



ホームページで毎週のゼミの様子を公開中!!

<http://www.akita-pu.ac.jp/system/aes/amenity/>

(検索サイトから“都市アメニティ工学研究室”で検索)

第9回は

## 8期生 福田恭史さん

OB・OG



皆さんこんにちは。都市アメ研 8期生の福田恭史です。この度、NLにメッセージを送らせていただくことができ、本当にうれしく思います。創刊時編集をした私が寄稿させていただくことになり非常に感慨深いものがあります。今回が第9号ということで月日の流れを感じます。

私は現在、某ゼネコンで施工管理をしています。現在は千葉の定置事務所に在籍し、千葉県内の震災復旧工事や改修工事をみています。3月末現在は、「海ほたる15周年リニューアル改修工事」を現場管理しています。4月20日のオープンに向け2012年の9月から24時間工事をしています。

管理の仕事は日々の朝礼から始まり、現場内巡視、図面と実物の確認、施主や協力会社との打ち合わせなど多岐に渡ります。私自身はまだ4年目ということもあり、職人さんと接する機会の方が多く、毎日が勉強の日々です。職人さんに指示することはもちろんのこと、仕事を理解する為に一緒に作業したり、くだらない話をしたりして信頼関係を構築しています。

仕事をして思うことは、ものづくりには良好な人間関係の構築は欠かせないということです。監督の立場である為、どうしても上から指示してしまう様な構図にはなりますが、同じ指示をするにしても良好な関係を築けている場合とそうでない場合は職人さんの作業への取りかかり方が全然違います。学生の皆さんには目指す職業に関わらず、今のうちからコミュニケーション能力を高めておくことをお勧めします。

大学時代の友達や先輩は非常に大切です。社会に出ると楽しいこともあります、その分ツライこと、苦しいこともあります。会社の同期もいますが、結局のところ頼りになるのは大学時代の友達や先輩です。くだらない話や仕事の愚痴を話したりしていると不思議と明日も頑張ろうと思えます。

最後になりますが、社会に出ると自分の時間が非常に少なくなります。もし今、興味があることがあるなら悩まずに「まず」やってみましょう。時間を自由に使えるのは今だけです。それが今後の自分の人生の幅を広げることになります。勉強にバイトに恋にとにかく悔いのない充実した学生生活を送って下さい。



4月

・入学式

5月

・本誌発行

6月

・計画学講座合同ゼミ  
(教員・D・M研究報告)

7月

・夏のオープンキャンパス  
・計画学講座合同ゼミ  
(学部4年研究報告)

8月

・建築学研修発表会  
・三年生配属

9月

・夏合宿(夏期集中研修)

### 編集後記

本荘にもようやくぽかぽか陽気が訪れ、田植えの季節となりました。新年度の都市アメ研究室メンバーはすっかり環境に慣れ、日々切磋琢磨しながら活動しております。

NL9号の表紙は、就職活動で東京に訪れた際に、赤坂サカスで撮影したものです。都市アメリ同、就職活動も研究も、全力で頑張っていきます!

2013. 5. 20 NL 編集部  
清水里美 山口邦雄



UAEL 編集部  
〒015-0055

秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口 84-4

秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科

電話：0184-27-2053 mail：yamaguchi-k@akita-pu.ac.jp

担当 山口 邦雄

### OB・OGの皆様へ

都市アメからのお願いです。ぜひぜひ、OB・OGのコメントへご協力お願いします。連絡は山口まで。